

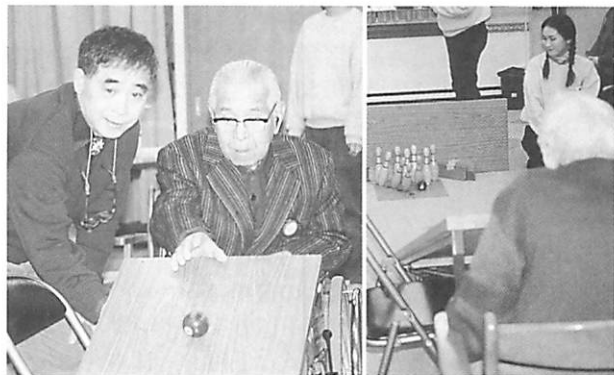
誰もが楽しめるスポーツを

「共遊球技」を開発・普及する竹内啓也さん

傾きをつけた机の上から球を転がしピンを倒す「スベリダイコロリング」。ビリヤードのように球をついて目標の球にあてる「リハビリヤード」。このユニークな呼び名は、竹内啓也さんが生み出した「共遊球技」の種目です。障害や年齢を越えて一緒に楽しめるスポーツとして、竹内さんは福祉施設や養護学校、各種イベントなどで「共遊球技」を紹介し普及に努めています。

この「共遊球技」誕生のきっかけは15年前、竹内さんが高齢者福祉施設の指導員をしていた時のこと。視覚障害のある人を担当し「目が不自由でも人とふれあいがら楽しめるものがあれば」と試行を重ね、鈴入りのバレーボールを棒で転がしピンを倒す「スティックボウリング」を開発したのが始まりです。今までに考案した球技は17種目。どの種目も「能力と障害を越えてみんながプレーできる。技術を問わない。勝てるチャンスがある」を基本にすえて作られています。

ある昼下がり、中原区にある「アースの森 小杉デイサービスセンター」でボランティアをしている竹内さん



を訪ねました。18人のお年寄りが紅白に分かれて「ウォールランボウリング」に興じています。「このゲームは、やる気1割、技術1割、後は運で勝負が決まります」と竹内さんが声をかけながら進行していきます。全部ピンを倒してポーズする人やねらいがはずれて残念がる人に拍手を送り、楽しそうに談笑する光景が見うけられました。

竹内さんは「声がかかればどこへでも行きます。プレーしている人の笑顔を見るのが喜びです」と語っていました。「共遊球技」に関する問い合わせは☎044(733)0732の竹内さんへ。『共に遊べる球技を創る』(日本レクリエーション協会)などの著書もあります。